

## 各指導類型の長所・短所をふまえて 教育課程の編成をします

これまで主流であったA・B年度方式と推進指定校で実践された  
学年別指導の長所と短所は、次のとおりです。

### <A・B年度方式>

#### 長所

- ・異学年による多くの人数で学ぶことで、多様な見方や考え方が出る可能性が大きい。
- ・個に応じた指導をする時間を生み出しやすい。

#### 短所

- ・系統的な内容の指導、特に技術的な面の指導が難しい。
- ・下学年の児童の能力差や経験差が埋められない場合が多い。
- ・転出入児童に対する学年を超えた内容についての未学習への対応が必要である。

### <学年別指導>

#### 長所

- ・通常のカリキュラムで学習できるので、教科の系統性をふまえた指導ができる。
- ・転出入児童に対する学年を超えた内容についての未学習への対応の必要がない。
- ・特に学年による差の大きい1・2年生において指導がしやすい。

#### 短所

- ・直接指導と間接指導の組み合わせとなり、指導が複雑で難しい。
- ・2学年分の教材研究や学習の準備が必要となり、教員の負担が増す。

したがって、子どもたちや学級、地域の実態を把握し、各指導類型の長所、短所をふまえたうえで年間指導計画を作成し、子どもたちの成長につながる教育課程を編成することが求められます。

教育課程の編成にあたっては、令和2年3月発行の「複式学級指導の手引き（令和元年度改訂版）」を参考にしてください。

## 「複式学級指導の手引き (令和元年度改訂版)」を発行しました。

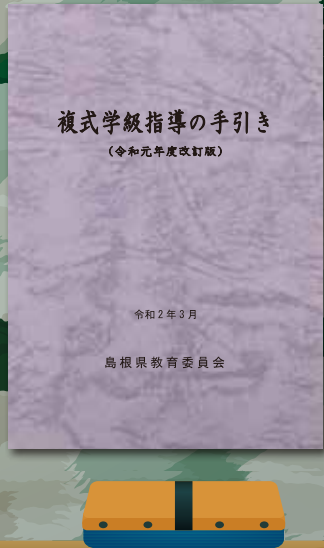
平成29年3月に新しい小学校学習指導要領が告示され、いよいよ令和2年度から全面实施となります。新学習指導要領では、育成を目指す資質・能力が示されました。「何ができるようになるか」を明確にするとともに、「何を学ぶか」という学習プロセスを重視した教育の実現を目指していくことが求められています。これまでの「何を教えるか」という知識の質や量の改善に加えて、「どのように学ぶか」という学びの質や深まりが重視されます。そのために「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が大切になってきます。

「複式学級指導の手引き（令和元年度改訂版）」では、この「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を目指し、複式学級における各教科等の学びの在り方や、異単元（学年別指導）や同単元同内容同程度（A・B年度方式）等の年間指導計画例を掲載しています。また、学年別指導における「ガイド学習」についても、指導方法や指導の際の留意点を掲載しています。ガイド学習は、単式・複式という学級

形態にかかわらず、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に結びつく学習形態であると言えます。

複式学級指導においては、児童が主体となり、友だちとの対話を通して自分の考えを広げたり深めたりすることができるような授業を展開していくことが大切になってきます。

「複式学級指導の手引き（令和元年度改訂版）」は、複式学級を担任した経験がない先生方にも分かりやすく作成されています。ぜひ「複式学級指導の手引き（令和元年度改訂版）」を参考としながら、各学校において、それぞれの学校や地域、児童の実態等に応じた教育課程を編成し、児童の学びが深まるような複式学級指導をしていきましょう。



### ◆複式学級指導の充実にご活用ください◆

平成26年度から複式学級指導の充実に向けた県内の教員向けの支援として、複式教育総合支援事業を実施しています。本リーフレットで紹介した複式教育推進指定校事業もそのうちの1つです。その他の取組を紹介しますので、各校での複式学級指導の充実に活用ください。

- (1)複式学級指導の手引き（令和元年度改訂版）**
- (2)複式学級新任担当者研修**  
初めて複式学級を担当する全ての教員及び希望者を対象に、5～6月に半日、2学期以後に1日（学校会場）の研修を実施する予定です。
- (3)出前講座の実施**  
島根県教育センターでは、複式教育をテーマにした「出前講座」を実施しています。学年別指導の授業をビデオで視聴するなど、実践的な内容を中心に行っています。
- (4)先進地の実践事例紹介（ポータルサイトに掲載）**  
他県の複式学級の国語・社会・算数・理科の学年別指導の実践事例を掲載していますので参考にしてください。

☐島根県教育用ポータルサイト 幼稚園/小中学校>教育指導課>学力育成>複式教育

■発行/島根県教育庁教育指導課 学力育成スタッフ  
TEL:0852-22-6709（義務教育担当）

## 複式学級指導充実のために

令和元年度  
～複式教育推進指定校事業リーフレット～

### ☀️複式学級とは、どんな学級か知っていますか？

児童又は生徒の数が著しく少ない場合、数学年の児童又は生徒を1学級に編制することができます。このような学級を複式学級と言います。

法的根拠：公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律（以下「標準法」という）

1学級の児童又は生徒の数の基準は、標準法で示す数を標準として、都道府県の教育委員会が定めることとされ、島根県教育委員会では、独自に以下のようにしています。

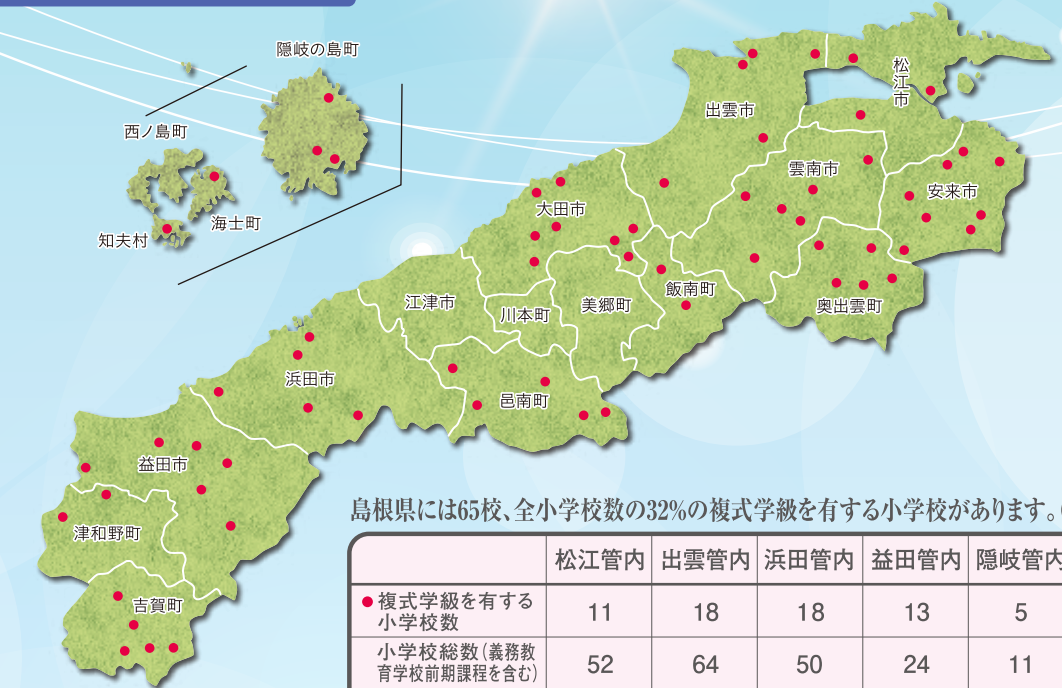
**中学校** 特別支援学級を除き、法律で示された基準の生徒数8人以下であってもすべて「単式学級」として編制する。（島根県独自）

**小学校** 複式学級の児童数は16人（第1学年を含む学級は8人）すべて1・2年、3・4年、5・6年の組み合わせで編制する。（島根県独自）

### ☀️島根県の複式学級を有する小学校の状況は、この10年で大きく変化しています

昭和50年代後半以降、島根県の複式学級を有する小学校数は、ほぼ90～100校の間で安定していました。しかし、ここ約10年で市町村立小学校は約50校、そのうち複式学級を有する小学校数は15校近く減少しています。

複式学級を有する小学校（令和元年度）



島根県には65校、全小学校数の32%の複式学級を有する小学校があります。（令和元年度）

	松江管内	出雲管内	浜田管内	益田管内	隠岐管内	合計
●複式学級を有する小学校数	11	18	18	13	5	65
小学校総数（義務教育学校前期課程を含む）	52	64	50	24	11	201
複式学級を有する小学校の割合（%）	21	28	36	54	45	32

令和2年3月 島根県教育委員会

## 単式学級には学年別の 順序によらない教育課程編成は 認められていません

～単式から複式へ、複式から単式へ移行する  
学級における教育課程編成に留意を～

複式学級においては、特例として学年別の順序によらない教育課程編成が認められています。一方、単式学級又は複式学級において学年別指導の教育課程を編成する場合には、この特例は認められておらず、小学校学習指導要領に示されている当該学年の目標及び内容で学習するよう教育課程を編成しなければなりません。

詳しくは、令和2年2月14日付け島教指第938号「複式学級を有する小学校の教育課程編成について」に添付の別紙を確認していただくとともに、不明な点は、学校を所管する各市町村教育委員会にお問い合わせください。



翌年度複式学級になる単式学級の奇数学年（1・3・5年）と、翌年度単式学級になる複式学級の奇数学年（1・3・5年）の教育課程編成に特に留意が必要です。



## ●複式学級では、どのように授業を行っているのでしょうか？

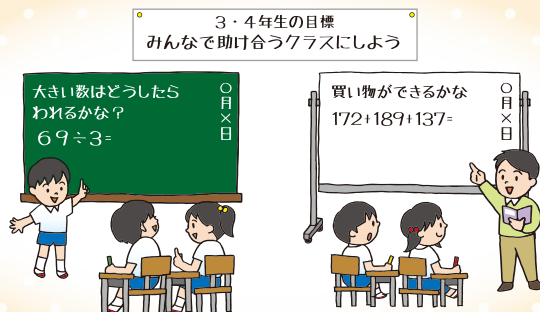
異学年の子どもたちが、同じ教室空間で学ぶ場合、大きく次の二通りの学習形態があります。

一つ目は、低・中・高、それぞれ2学年分の内容を2年間に配当して目標を達成する同単元同内容による指導（以下「**A・B年度方式**」という）方法です。島根県内の複式学級では、県独自の学級編制基準により低・中・高の完全複式で安定的に学級が編制されてきました。この2つの異学年間での授業実践については、各学校で豊かな成果の蓄積や継承があり、今日に至っています。

一方で、教科の系統性からA・B年度方式が難しい算数は、2つの学年が異単元の内容を学習する「**学年別指導**」を行ってきました。教員が双方の学年の学習過程の直接指導と間接指導の場面を「ずらし」、それによって両学年間を「わたり」、指導をする指導方法です。

しかし、近年は児童数の減少等により、単式学級から複式学級になったり、欠学年が生じて単式学級になったりすることが多く見られます。このように単式・複式を繰り返す学級では、法令の定めにより、算数以外でも学年や教科の種類によっては「**学年別指導**」による指導が必要となってきています。

学年別指導の必要性が高まっている中で、同時に2つの学年を指導するためには、その指導力が必要となってきます。



## ●複式教育推進指定校事業について

平成26年度から、これまで本県で取り上げられることの少なかった国語、社会、理科における効果的な学年別指導の在り方を研究し、成果の普及を図ることを目的として、複式教育推進指定校事業を実施しています。

平成29年度からは、複式学級における学年別指導の充実を目指し、算数を新たに対象教科に加えしました。

### ★令和元年度 複式教育推進指定校事業の取組

- 複式学級を有する小学校3校（東部・西部・隠岐）を指定
- 内容
  - ・国語、社会、算数、理科の学年別指導方法についての研究（学校が1教科以上を選択）
  - ・学年別指導の授業公開
  - ・先進地視察 等
- 事業費：1校あたり30万円

## 令和元年度指定校の取組

### 安来市立井尻小学校

#### 1 学校について

- 複式学級 低・中・高学年
- 研究主題
  - 課題意識をもち、自分の考えや思いを伝え合い高め合う子どもの育成
  - ～複式学級のよさを生かして育てるコミュニケーション力～

#### 3 授業公開：令和元年12月3日（火）

- 第3・4学年 ●単元
- 校外参加者 30名

#### 2 年間の取組

##### (1) 先進校視察・研究会参加等

- ◎広島大学附属東雲小学校
- ◎全国へき地教育研究大会長野大会 ほか

##### (2) 研究授業

- ◎3・4年複式算数科訪問指導（9月・11月）
- ◎5・6年複式算数科訪問指導（9月）



### 津和野町立青原小学校

#### 1 学校について

- 複式学級 中・高学年
- 研究主題
  - 自分の考えを持ち楽しく学ぶ子の育成
  - ～算数科において個別の支援が必要な児童への効果的な手立てを中心にして～

#### 3 授業公開：令和2年2月3日（月）

- 第3・4学年 ●単元
- 校外参加者 12名

#### 2 年間の取組

##### (1) 先進校視察・研究会参加等

- ◎全国へき地教育研究大会長野大会
- ◎益田市立桂平小学校 ほか

##### (2) 研究授業

- ◎3・4年複式算数科訪問指導（6月・11月・1月） ほか



### 知夫村立知夫小学校

#### 1 学校について

- 複式学級 低・中・高学年
- 研究主題
  - 対話的で深い学び合いの実現に向け、表現する力を高め合う知夫の子どもの育成
  - ～複式学級におけるダイヤモンド型を軸としたガイド学習の実践～

#### 3 授業公開：令和2年2月6日（木）

- 第5・6学年 ●単元
- 校外参加者 17名

#### 2 年間の取組

##### (1) 先進校視察・研究会参加等

- ◎出雲市立窪田小学校
- ◎四万十市立中筋小学校 ほか

##### (2) 研究授業

- ◎1・2年複式国語科訪問指導（10月）
- ◎3・4年複式国語科訪問指導（7月）



## 実践から得られた学年別指導のポイント

### ◆話す必要感のある場、活動、学習課題等の設定の工夫を！

児童の興味・関心を高め、課題解決のイメージをもって学習に取り組めるようにするために、単元の導入場面において児童にとって身近なものを使うよう工夫をしました。実際に学校生活で経験したことや身近な人物を登場させたことで、児童は導入以後の学習に意欲的に取り組むことができました。

### ◆直接指導と間接指導、同時間接指導を取り入れた、学習の流れの工夫を！

授業の導入部分や個人思考にかかる時間は短くし、全体思考の時間を確保したことで、間接指導ではガイド役の児童を中心に課題解決に困った時もしっかり立ち止まりながら考えることができました。また、同時間接指導も取り入れ、進行に困っているガイドや個人思考でつまづいている児童への支援を的確に行うようにしました。

ガイド学習においては、話す力、聴く力、書く力等、様々な技能が求められます。低学年からガイド学習を取り入れ、教師がガイド役となったり、児童と一緒にガイドになったりし、ガイド学習の基礎を養っていくことが重要であると考えます。



### ◆学習の流れを共通化することで、ガイド学習を充実させる！

「めあて—自分で考える—くらべながら聞き合う—まとめる—問題に取り組む—振り返る」というように、全学年が同じ学習の流れで進めました。児童は学習に見通しをもつことができ、安心して学習に集中できました。また、低学年は複式学級ではありませんが、ガイド学習を意識してペア学習を進めています。

### ◆教師の「つなぐ」言葉がけで、児童の関わり合いを支える！

児童の発言について、教師が補足したり繰り返したりすることをなるべく避け、児童に問い返したり、問いかけたりします。そうすることで児童の発言をつなぎ、互いに関わり合いながら考えを深めることができます。

教師の発問はよく吟味したもののだけにします。児童に理解させたいという思いが強いと教師が話しすぎて、児童の課題解決の思考を邪魔します。まかせる場面においては、教師は見守る姿勢で支援することが大切です。



### ◆系統性を重視した教材研究を！

対話的で深い学び合いの実現に向けての授業づくりのポイントとして、ねらいの明確化を図ることを意識しています。学習内容の系統性を踏まえ、既習事項を生かしたり、今後の学習を見通して学習への必要感をもたせたりすることを意識しながら、単元及び授業を組み立てることを重視しました。

### ◆低学年期からのガイド学習の積み重ねを！

ガイド学習を支えるのは、「聴き方・話し方のルール」の徹底等低学年期からの積み重ねです。「ガイド学習系統表」を作成し、ガイドの役割や学習の様々な場面で育てほしい児童の姿を整理し、共通理解を図っています。

ダイヤモンド型の学習においては、同時間接指導時にいかに両学年の学習の様子を把握するかがポイントとなります。ガイド学習を通して対話的な学びの場をつくらせるとともに、ホワイトボード等を活用し、児童の思考を可視化することで、一人一人の児童の思考を捉えます。

ダイヤモンド型の学習・・・授業の導入と終末は同時直接指導を行い、展開は同時間接指導を行う指導形態

